

平成27年度
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
(研究成果の社会還元・普及事業)
実施報告書

HT27267 夏の教室-弥生の人々の暮らしと昆虫とのつながり



開催日: 平成27年7月25日(土)
平成27年7月26日(日)
実施機関: 九州大学
(実施場所) (旧工学部本館3階第一会議室)
実施代表者: 岩永 省三
(所属・職名) (総合研究博物館・教授)
受講生: 小学5・6年生17名・中学生4名
関連URL: [http://www.museum.kyushu-u.ac.jp/e
vent/previousevent01.html#hiratoki](http://www.museum.kyushu-u.ac.jp/event/previousevent01.html#hiratoki)

【実施内容】

本プログラムでは、発掘により出土したものを観察し、昆虫に触れる体験を通じて、遠い昔の人の暮らしを考え、また、ヒトと関わってきた昆虫について学ぶきっかけとすること、考古学と昆虫学という異なる研究分野間のつながりを示すことで、文系、理系という枠にとらわれることなく、実物を見て、調べ、考えるという研究の魅力の体験を得ることを目的とした。

【プログラム実施で留意・工夫した点】

1. 異なる研究分野の講義の組み合わせ

・考古学と昆虫学は、一般的には同時に学ぶことは無いが、本プログラムでは、講師に学問間の知見の交流に触れていただき、学問同士のつながりを考えるきっかけとした。

2. 実物による体験の重視

・観察と採集を通じて、生きている昆虫を体感できるよう工夫した。
・終了後も家庭内で興味を掘り下げることが可能なテキストを作製し、持ち帰り用の素材も準備した。

3. 講義、実習、展示のバランス

・参加者の集中力をふまえ、大学の雰囲気も感じていただけるよう、講義、実習、展示を組み合わせた。
・会場の展示物は、プログラム中随時見学できるようにし、移動用の展示ケースを利用するなど博物館の雰囲気を出すことで、博物館の役割について考えるきっかけともなるようにした。

4. 採集、実習でのきめ細かな指導

・実施協力者には準備作業を通じプログラムの内容を理解していただき、受講者にきめ細かく指導していただいた。特に細かな手技の必要な昆虫標本作製には、受講者2人に1人の割合で指導者を配置した。

【当日のスケジュール】(二日間通しての参加、一日のみの参加どちらも可能とした。)

平成27年7月25日(土) カイコの糸取り体験

9:30～10:00 受付

10:00～10:15 開講式(あいさつ、オリエンテーション、科研費の説明)

10:15～10:30 ミニ展示「先史時代の品々」見学とお話(講師:岩永 省三)

10:30～11:00 講義「カイコのおはなし」(講師:伴野 豊)

11:00～11:15 休憩

11:15～12:00 実習「カイコの糸とり体験」
 12:00～13:00 昼食
 13:00～14:30 実習「より糸作成」(途中 15分休憩)
 14:30～15:00 クッキータイム
 15:00～15:30 修了式(アンケート記入、未来博士号授与、記念撮影)
 15:30 終了・解散

平成 27 年 7 月 26 日(日) 昆虫標本作製体験

9:30～10:00 受付
 10:00～10:15 開講式(あいさつ、オリエンテーション、科研費の説明)
 10:15～10:30 ミニ展示「先史時代の品々」と「カイコの観察」見学とお話(講師:岩永 省三)
 10:30～11:00 講義「人の暮らしと昆虫とのつながり」(講師:紙谷 聡志)
 11:00～11:15 休憩
 11:15～12:00 実習「昆虫採集」
 12:00～13:00 昼食
 13:00～14:30 実習「昆虫標本作製」(途中 15分休憩)
 14:30～15:00 クッキータイム
 15:00～15:30 修了式(アンケート記入、未来博士号授与、記念撮影)
 15:30 終了・解散

※台風接近による天候悪化と気温上昇のため、当日、講義と実習「昆虫採集」の順序は入れ替えて行った。

【実施の様子】

7 月 25 日(土) カイコの糸取り体験



①伴野先生の講義 ②質問に答えています

③繭から絹糸を引き出し定規に巻きつけました



④巻き付けた糸を、より糸に加工しました
 より糸は、腕に巻いたり、葉にしたり、
 使い方はいろいろ工夫できます。

⑤未来博士号→



7 月 26 日(日) 昆虫標本作製体験



①開講式では実施協力者の自己紹介も行いました

②屋外での採集

③岩永先生の講義



↑ ⑤紙谷先生の講義とミニ実験

⑥未来博士号の授与

←④本格的なセミの標本を作製しました

【事務局との協力体制】

理学部等経理係が、委託費の管理と支出報告書の確認を行った。産学・社会連携課連携事業推進係が、振興会への連絡調整と、提出書類の確認・修正等を行った。総合研究博物館事務室が上記の補助業務、広報媒体の発送、参加希望者からの問い合わせ等を実施分担者に取り次ぐなどの業務を行った。

【広報活動】

- ・実施分担者が、博物館のウェブサイト、SNS を用いて本事業を PR した。
- ・九州大学のウェブサイトのイベント欄に掲載を依頼した。
- ・博物館事務室が、博物館が発行している広報媒体を近隣の学校を含む学外組織、個人に発送した。

【安全配慮】

- ・受講生と実施協力者は、レクリエーション保険に加入した。
- ・実習中の安全確保としては、会場全体を見渡す、展示物に付き添う、実習中注意を要する箇所など、要所に人員を配置した。子供のみで参加している場合には、昼食を一緒にとるなどの配慮も行った。

【今後の発展性、課題】

- ・アンケート結果では参加者から高い評価を頂き、充実したプログラムが実施できたと感じている。
- ・参加希望者の兄弟姉妹も参加可能にすることで、家族での参加も容易となり、プログラムと一緒に体験することによる帰宅後の興味の掘り下げにも期待が持てた。
- ・二日間通しての参加、一日のみの参加どちらも可能としたが、プログラムの連続性の保持と差別化に負担が大きかった。今後は、より多くの方に参加していただくことを優先し、一日のみの参加としたい。

【実施分担者】

三島 美佐子	総合研究博物館・准教授
丸山 宗利	総合研究博物館・助教
米元 史織	総合研究博物館・助教
伴野 豊	農学研究院・准教授
紙谷 聡志	農学研究院・准教授
福原 美恵子	総合研究博物館・技術補佐員

【実施協力者】

___10名

【事務担当者】

大木 ひかる 産学・社会連携課 連携事業推進係・係員